

私が通っていた小学校は外国籍の生徒が多く、
 生徒間で言語が通じないことが多くあり
 ました。ですが、多くの生徒がそこで互いを
 否定、拒絶するのではなく、積極的に交流を
 図ろうとしたところが母校の良いところだと
 今では思います。

現代社会では国家や人種の間での争いが絶え
 ません。争いの要因が単純でないことを理解
 していても、やはり私たちは平和であることを
 を強く望みます。では、少しでも平和に近づ
 ぐにはどうするのかが良いのではしょう。私は人
 種や国を超えて積極的に交流あることが必要
 だと、小学校での経験から今はそう考えます。
 交流によって平和が実現されることも、交流が
 なければ平和を実現するのは難しいです。か
 らして私は派遣生としてオーストラリアの
 人々との交流を通して互いの文化や歴史を理
 解すると同時に、多くの人が海外の方と
 交流する機会を持つことができたらいいで
 す。

最後、私は派遣生として内定するまでに
多くの人に支えられてきました。母や友人、
習い事や学校の先生方だったり、青少年期外
派遣事業に携わる方々がいたからこそ、この
プログラムに応募して、派遣生に内定することが
できました。支えてくれた方々への思い
をこれに環境への感謝を忘れることなく、私に
できることを精一杯頑張ります。